

議会だより



墨真書道教室書初会

主な記事

第4回定例会 各会計補正予算を原案可決ほか…………… P 2

「大雨災害被害農家の救済」など8名の議員が町政を問う…………… P 7

新企画「みんなのページ」今回は育児サークル『I♡BABY』を取材…………… P 15

第4回定例会開催

第4回定例会が12月13・14日の2日間、開催されました。本定例会では、各会計補正予算などを議決し、平成22年度各会計歳入歳出決算と企業会計を認定、その他意見書の提出を発議し可決するとともに、8名の議員が町の一般行政について質問しました。



各会計補正予算を原案可決

一般会計他7会計の補正予算等を原案可決しました。

12月補正予算の状況

会計名	補正額	総予算額
一般会計	6,479万1千円	67億1,381万7千円
国民健康保険特別会計	1,281万3千円	13億9,555万4千円
後期高齢者医療特別会計	19万8千円	1億163万9千円
介護保険特別会計	8万8千円	7億9,613万7千円
ラベンダーハイツ事業特別会計	250万円	3億5,154万円
公共下水道事業特別会計	542万5千円	4億7,203万2千円
水道事業特別会計	0円	2億5,823万円
病院事業会計	141万1千円	9億4,268万円

9月(予定)にTVH放送の

難視聴地区が解消

地デジ化に伴いTVH放送の視聴が困難な地域の解消を平成24年9月に(株)テレビ北海道が整備するため、その経費の一部を3市町の難視聴地区の人口割で負担します。上富負担分115万円(負担金総額1千766万8千円の6.51%分)

防災行政無線

屋外拡声機をデジタル化

特定防衛施設周辺整備調整交付金(以下「調交」)の増額に伴い、防災行政無線の屋外に設置している拡声子局をアナログ方式からデジタル方式に更新する経費3千240万円が追加補正されました。



旭町1丁目2番通り

改良工事を延長

調交の増額に伴い、215mの改舗装工事費1千56万1千円が追加補正されました。

質疑から

TVH難視聴地区の人口2千32人はどのように調査したのか。上富・中富・富良野の負担率は。

実態調査で把握し、難視聴の人口割合で負担することを各市町で合意した。

旭川方向からの電波との混信や干渉は。

現在の民間放送の受信状態から想定していないが、技術的な障害はTVHに事前確認し、完了前に防災無線等で周知を図る。

集中豪雨等農業経営維持資金利子補給の審査基準のボーダーライン層の判断は。

経営状況等を鑑みJAの審査基準で資金の融資等を図っている。

西小学校体育館整備の耐震改修に併せて音響設備の更新を。

学校からの要望もあり、耐震化と老朽化の観点で、予算規模等を総合的に判断して検討する。

日の出公園臨時駐車場整備用資材の減額補正について79.7%の不用額であり、その原因と予算編成時の組み立てはどつだったのか。

砂利敷設を予定していたが、借用先(駐屯地)から多くの砂利敷設は困るとの注意事項もあり、最低限の資材で整備した結果である。

学校給食センター

蒸し器等の更新整備

当初、平成24年度に計画していた、冷蔵庫、蒸し器の更新整備について、整備費用である調査の財源が増額されたため、この費用として補正予算417万3千円が追加補正されました。



国民健康保険特別会計補正

予算(第3号)を原案可決

一般被保険者及び退職被保険者分の高額療養費の増加、国保基盤安定負担金の確定に伴う繰入金額の減額、国保財政安定化支援事業繰入額の確定に伴う減額、給与改定等の減額などに伴い、1千281万3千円を減額補正し、総額を13億9千555万4千円とする補正予算を原案可決しました。

後期高齢者医療特別会計

補正予算(第2号)を原案可決

保険基盤安定負担金の確定などに伴い19万8千円を追加補正し、総額を1億163万9千円とする補正予算を原案可決しました。

介護保険特別会計補正予算

(第3号)を原案可決

給与改定に伴う減額など8万8千円を減額補正し、総額を7億9千613万7千円とする補正予算を原案可決しました。

ラベンダーハイツ事業特別会計

補正予算(第2号)を原案可決

介護業務支援システム導入・スーパー次亜水生成機等導入事業費の確定に伴う債務負担行為の減額、職員給与と費の減額、暖房機器等の修理増に伴う増額など250万円を減額補正し、総額を3億5千154万円とする補正予算を原案可決しました。

質疑から

修繕費の増額補正

施設も老朽化しており、修繕計画は、

総合計画を始め、それ以降の設備修繕等の計画も持っている。

一般会計からの繰り入れ対応が必要では、10年ぐらいの長期収支の見込みをたてながら理事者と協議したい。

円とする補正予算を原案可決しました。

水道事業会計補正予算

給与改定に伴う職員給与と費の減額(5万5千円)を予備費に充当する補正予算を原案可決しました。

病院事業会計補正予算

(第1号)を原案可決

給与改定に伴う人件費53万2千円を減額し、予備費に充当する収益的収入及び支出の補正、医事コンピューター更新・医師住宅新築などの確定と寄付金採納などに伴い141万1千円を減額補正し、資本的収入及び支出の総額を6千657万円とする補正予算を原案可決しました。

農業情報センター条例の

廃止を原案可決

平成8年導入の農業情報システムは老朽化により平成19年1月からJAふらののFAXシステムに移行され、平成18年度末で事業を終了しており、備品補助金処分制限期間(平成23年3月)の経過により、当該条例を廃止する条例を原案可決しました。

公共下水道事業特別会計補正

予算(第3号)を原案可決

給与改定に伴う人件費の減など542万5千円を減額補正し、総額を4億7千203万2千

公共施設の指定管理者の

指定を原案可決

左記の3つの施設について、5年間の指定管理者の指定を原案可決しました。

日の出公園施設（日の出公園、日の出公園オートキャンプ場、町営スキーリフト）

指定管理者 株上富良野振興公社

指定期間 平成24年4月1日から

平成29年3月31日まで

吹上温泉保養センター

指定管理者 株上富良野振興公社

指定期間 平成24年4月1日から

平成29年3月31日まで

パークゴルフ場

指定管理者 株シー・エス・ティ

指定期間 平成24年4月1日から

平成29年3月31日まで



質 疑 から

日の出公園施設

毎年の事業報告を評価して、ふさわしくない行為があれば、解除もあり得るのか。

協定書の条項として途中で事故があるような場合は指定を取り消すという条件を付している。

5年の指定期間の委託料は。

5年間の平均値で年間2千575万6千円。

指定期間5年で申請を受け付けたのか。

5年の指定管理を行うという条件を付したの公募を行った。

議会議決で3年ということもあり得るのか。

議会議決が必要であり、議決がいただけなかった場合には協定はしない状況である。

指定管理選定委員に専門家を入れる条項があるが、今後考える余地があるかどうか。

条例は特殊な要因が多いもの（介護施設など）について、規定を設けており、今後、入れる可能性もある。

協定の中に労働法遵守も入れていくべきではないか。

仕様書等で明記し、所管課でもチェックしている。

指定管理者側が整備できないもの（駐車場の狭隘改善）は、行政がやるべきでは。

指定管理者自らが行える範囲（維持・修繕部分）を超えるものは、町が直轄で行う。

答 問

雇用形態の実態等はどうかになっているのか。算定したとりに賃金が払われているのか。多種多様な業務があり、経営内容に入り込むわけにならないので、基本的な事項として、5年間、安定的な雇用環境をお願いしている。

吹上温泉保養センター

5年間の指定期間の委託料は。職員配置は計画書の中でどうなのか。

5年間で約1千500万円。年平均で310万円前後の委託料を見込んでいる。

現在、施設長1人が正規職員で、あとは臨時職員である。

パークゴルフ場

3コースをいつでも利用できるような体制を。芝の適正管理を。

整備時間を短くして、全てのコースが使えるよう指定管理者に話をしているが、コース部分でなかなか難しい。芝の適正管理は協定締結時に伝えたい。

サービス充実で受益者負担により利用料金を上げることも必要ではないか。

委託料を増やして、収入減を対応するのは限界がある。受益者負担は大原則であるが、時期は十分検討していきたい。

答 問

答 問

答 問

人事案件



川鍋 まさ子氏
昭和23年生
宮町3丁目

人権擁護委員1名の退任に伴い、人権擁護委員法第6条第3項の規定により、新たに川鍋まさ子氏を候補者として推薦に適任と答申しました。

問

答

質疑から

自己評価表は、職員研修計画をどう指導されたのか。次年度への回数券有効期限の延長はどういう内容か。利用者のトラブル未然防止と対処は。委託料5年間の平均は。自己評価の空白部分、理由がない部分は十分指導をする。回数券は単年度しか利用できなく、利用者からの意見要望で、翌シーズン5月までの改善を図った。委託積算は、24年度40万円、以降は協定締結で精査していく。全体的な雑草・植栽管理は、管理全体の中で指導したい。

意見書を可決し、
国などに提出しました

環太平洋経済連携協定に反対する意見書

TPP協定が地方の産業と国民生活に及ぼす影響などについて十分な情報提供とあわせて、国民的な議論を行うとともに、引き続き国民・道民合意のないまま、関税撤廃を原則とするTPP協定には参加しないことを重ねて強く要望する意見書です。

なお、この意見書は過去2回にわたって意見書を提出しています。

ワクチン接種緊急促進事業の
継続を求める意見書

現在行われているワクチン事業が平成23年度をもって終了しますが、命と健康を守る観点と、国民に対しての不公平をなくすためにも平成24年度以降も継続して実施することを求める意見書です。

軽油引取税の課税免除措置などの
恒久化を求める意見書

農林水産業・運輸業の発展に貢献してきた軽油引取税の課税免除措置が平成24年3月末で廃止される予定であることから、課税免除措置の恒久化と農林漁業用A重油に対する課税免除措置、地球温暖化対策税の農業者への負担が増えないよう措置を講ずることを求める意見書です。

第5回臨時会(11月28日開催)

町長・副町長・教育長の給与減額を継続

「特別職の給与に関する条例及び上富良野町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例(平成23年12月1日施行)」を原案可決しました。

特別職の給与については、これまでの厳しい町の経済状況や財政状況を踏まえて、平成21年12月1日より2年間、一定額を引き下げてきましたが、今後も厳しい財政状況が予想されることから、町長の任期中の平成24年12月26日まで、引き続き減額するものです。

- 町長「75万円」 「72万円」
- 副町長「62万円」 「60万円」
- 教育長「56万5千円」 「55万5千円」

町職員の給与を減額

「上富良野町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例(平成23年12月1日施行)」を原案可決しました。
人事院勧告を踏まえ、公務員給与が民間給与より高いため、給与の引き下げをするもので、40代以上から50代を中心に平成23年4月に遡り、給料の引き下げが行なわれます。

平成22年度各会計決算を 審査意見を付して認定

22年度に町が取り組んだ主な事業

定住移住促進対策

定住・移住相談窓口として、移住体験記・農家跡地等の紹介をホームページに掲載。移住実績は8戸14名。

防災の強化と支援

町民の防災に対する理解と意識の高揚を目的に防災担当課長を配置し、自主防災組織の活性化を支援。東日本大震災に伴い見舞金の送金と被災者の受け入れ体制整備。

母子保健事業

妊婦検診の充実と小児の感染予防のため、子宮頸部がん・ヒブ・肺炎球菌ワクチン及びインフルエンザ予防接種費用の助成を実施。

緊急雇用創出事業

雇用を増やすために、国・道の交付金を活用し、

公園の整備・冬の食と温泉体験観光など、9事業で雇用人数は33人。

商工振興事業

消費を促すためにプレミアム付商品券発行を補助。

教育振興事業

子どもたちを取り巻く環境変化に対応するための学校教育アドバイザーを継続して配置し、学校・家庭・地域の連携を促進。

審査意見

一般会計

町税等の収納

税の収納状況については引き続き訪問回数を増やすとともに、窓口相談対応などを適切に行い、収納率向上に努められた。

一般廃棄物

一般廃棄物処理施設地区連絡協議会負担金については見直しを図られた。

雇用対策

国の緊急雇用対策にとどまることなく、緊急雇用創出事業で実施した事業を進展させて、通年雇用に繋がるよう、また、実施事業を継続展開するよう努められた。

特別支援

不登校生徒や保護者の悩みに対応できる体制整備を図られた。

文化財

郷土の文化財保護に努められた。

国保会計

特定健診の受診率については高い受診率であるが、未受診者の解消に努められた。

介護施設

要介護者の増加に伴い、町の介護施設充実を図られた。

貸付金

しるがね土地改良区償還事業円滑化資金については、不納欠損とならないよう努められた。

商店街活性化

商店街空き店舗及び商

民生児童委員

民生児童委員について、管内状況や活動実態に見合った報酬と待遇改善を図られた。

富良野・美瑛広域観光

推進協議会の活動と併せて、町の特色を活かした観光の振興を図られた。

不登校生徒や保護者の

悩みに対応できる体制整備を図られた。

郷土の文化財保護に努

められた。

特定健診の受診率につ

いては高い受診率であるが、未受診者の解消に努められた。

要介護者の増加に伴い、

町の介護施設充実を図られた。

商店街空き店舗及び商

店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

商店街活性化

向山町長 収穫や営農に支障をきたさないよう、被害農地や農道など、生産基盤整備の復旧に対する助成策を講じている。資金面では農業経営緊急



被害現場を調査中

大雨災害の被害農家に 対する救済を

救済対策事業は現在予定していない

岩崎議員 春先からの異

常気象や総雨量200ミリを
超えるゲリラ豪雨などに
より、基幹産業の農業の
農作物に甚大な被害をも
たらした。町長は減収と
なった被害農家に対し、
どのような救済対策を考
えているのか。



岩崎 治男 議員

農業被害が多く、新年度
予算で来春施工される復
旧事業の対応を図る。

岩崎議員 緊急支援資金

の件数、金額、利子補給
を具体的に。支援資金以
外の救済対策は。

前田産業振興課長 現在

の調査段階で40件、資金
は約1億5千万円程度、
利子補給の金額は94万3
千円(5年以上10年まで)
を予定している。

向山町長 救済に係わる

対策事業は現在予定して
いない。

岩崎議員 異常気象は3

年連続している。農業共
済組合の掛け金を納めた

ベブルイ川の 立木伐採を早急に

年次的に伐採整備される

岩崎議員 河川敷に自然

に生え育った立木が大き
くなり、倒れて危険な状
況である。道の管理河川
であり町を通じて要望し
ているが何の回答もない。
現在の状況は。

ら減収分が補填される。
美瑛町は共済掛け金を掛
けられない農家に対し、
岩崎議員 農協20%、町20%を支援
する加入率促進事業を
行っている。当町もこの
共済加入促進事業を24年
度から行うことはできな
いか。

向山町長 経営者の自己
責任で加入するのが本来
の姿であり、共済掛金支
援の考えはない。農地被
害、農道等被害に対して
は万全を期していく。農
業共済の支援は、共済組
合組織が組合員に対して
理解を深めていただくこ
とを期待している。



デボツナイ川による水稲埋没現場

次計画に基づき伐採整備
する情報を受けている。
今後も早期実施に向け要
望を継続していく。

岩崎議員 河川敷の立木

の伐採は地元住民が手の
こやまさかりを持って、
その作業に見合う賃金を
道より支払ってもらおう。

デボツナイ川流亡土の撤去を 土砂上げを一部発注済みと 連絡を受けている

岩崎議員 8月の集中豪

雨により、東6線北20号
交差点付近の水稲などの

そういう体系も必要と思
うかどうか。

向山町長 そのような救

農土木事業があつた記憶
はあるが、北海道の方で
持ち合わせているのか、
また可能であるのか、建
設管理部に方向付けの考
えを聞きたい。

農作物が大きな被害を受
けた。原因は改修の行わ
れていないデボツナイ川
の蓄積された流亡土で
あつた。この件は町を通
じて建設管理部に早期に
返答をもらうこととなっ
ていたが、現況と対応を
伺いたい。

向山町長 北海道旭川建

設管理部富良野出張所か
らデボツナイ川の土砂上
げは、本年度すでに一部
を発注済と連絡を受けて
いる。



村上 和子 議員

中学生以下の

医療費の無料化を

厳しい財政の中、制度化を

図ることは困難

村上議員 10月から中学生以下の子どもがいる家庭では、子ども手当の支給が下がり、今年は所得税の扶養控除も廃止され、来年は住民税の扶養控除も廃止になり、復興増税も所得税の何%か支払うとなれば、家計はかなり圧迫される。24年度から、中学生以下の医療費を全額補助し、無料化にしてはどうか。

除から手当へ転換された町独自の助成として子育て世帯の負担軽減を図るため、就学前幼児の医療費の全額補助を実施している。厳しい財政状況の中でこれらの制度化を図ることは困難と考えている。

向山町長 個人住民税は24年度から実施され、控



乳幼児健診・医療

る。

村上議員 他町村では高校生まで医療費無料化、保育料の無料化、町で子育てをしようという人に100万円を支給するなど色々と子育て策を打っている。今は経済的負担が様変わりしている。重要課題と捉えているなら、

林業担い手育成で雇用創出を

自然エネルギーの利活用で活性化の兆しがあれば取組む

村上議員 働く場所がなければ、若い人は町外に流出し、50代・60代の定着も難しい。道の林業支援策等を利用して担い手を育成し、林業労働者の創出を。

向山町長 林業施業事業

については、人手を必要とするような状況ではないと伺っている。緊急雇用創出事業を活用し、57名の雇用を図っている。事業では継続性がなく、

何とか考えられないか。

向山町長 他市町村が個別に支援事業を展開していることは承知している。産み育てる段階から中学生まで含めて、トータルで子育て支援の諸対策を構築したいと考えている。財政抜きでは政策はできない。



間伐作業



伐採後

一時的で林業の植林業者は1社で需要に追いつか

ないと聞いている。美しい森を育てるため、上川総合振興局から表彰された人や道の青年林業士に認定された素晴らしい人材の方がおられるので、協力を得て林業従事者の担い手や就労者を増やしてはどうか。

食育の取り組みと特色ある 学校給食の食器整備を 安心安全な食材で特色ある 学校給食の実施を検討する

村上議員 今日食べている食事が人の手を介して、ありがたく頂くということがわからなくなっている。特色ある学校給食とそれに見合う食器の整備を。

北川教育長 食育の取り組みは町の食育担当と連携し、栄養指導や生産者等への感謝する心の育成に努める。安心安全な食材確保に努め、新たな特色ある学校給食の実施に向け、研究検討していく。

向山町長 道でも森林の利活用は自然エネルギー

等の絡みがあり、力を入れる分野であると聞いており、植林や伐採等も含め、活性化が図れる兆しがあれば林道整備も町は積極的に取り組みたい。

食器については更新時期に保管能力等を総合的に判断し、可能であれば対応していく。

その他の質問

Q 医療費を引き上げるため、動脈硬化の発症と進行を防ぐために若い層の健診受診率を高めることが必要では。

A 保健師が訪問して、受診の必要性を説明し、22年度の受診率に繋がっている。今後も若い層の受診率向上に努める。



佐川 典子 議員

認知症や障がい者を守る 成年後見制度を！ 早急に周知し 情報提供に務める

佐川議員 町の高齢化率は25.6%（23年5月）でそのうち約60人が虚弱や寝たきり、認知症の要支援・要介護の高齢者で推移し、増加している。認知症・知的障がい・精神障がい等で物事を判断する能力が十分でない人の権利を守るための援助者を選ぶことで、法律的に支援する「成年後見制度」が平成12年制度化された。悪徳商法や不合理な契約で被害に遭わないため、本人の将来の財産や権利

議会が法人後見人事業を実施している。参考にしながら来年度に研修検討を図り、早期に体制を構築したい。今後、町広報ポスターやホームページ等の利用や社会福祉協議会、民生児童委員協議会、関係団体を通じ制度の説明や周知、相談や研修も開催していく。



佐川議員 知的障がいを持たれた方の施設計画がなされた時やラベンダーハイツ等の利用者に利用支援事業として町の助成で安心を広める考えは。

向山町長 現在、具体的な制度設計もなく、今後の機関として適当かどうか検討する。

30代から増える乳がんの 検診啓発促進を！ 現状のまま40歳 からの検診で対処

佐川議員 日本女性の乳がん死亡率は96年冒がんを抜いて1位になっている。20年前の約2倍で1万2千450人を越え30代から急増している。将来に向け、町独自で無料検診など幅出しをして若い世代から乳がん検診の大切さの啓発と早期発見を促すべきでは。上川管内で多くの町村が30代からの検診である。道内のがんの状況は23年11月まで義務化ではなく、正確な数字は把握できていないはず。子供を生み育てたり

向山町長 平成11年から20人が検診で発見されたことから検診の効果は高い。検討会において見落

家族を持つ「世帯形成期」の女性の身体を守る施策としての今後の考えは。

向山町長 としてが課題とされていることから40歳からの検診でマンモグラフィーと視触診検診の併用を行っている。罹患率の増加への対応は、自己触診の周知徹底を図っていく。

地域主権に向け 協働のまちづくり課を！ 今までどおり行政全体で対応

佐川議員 自治基本条例が21年4月施行され、今後は一層住民の声を聞き、自己決定自己責任が求められる。高齢化に伴う時代の潮流に沿った町民への様々な対応と対処の充実に努めるための「課」が必要ではないか。条例の見直しについて今後2年の間に検討するのか？

向山町長 「協働に向い町内の様々な主体の活力が発揮できるように全力を傾け実効が表れるよう取り組む」と言ったがそのスピードと「ワンストップサービス」と「わかりやすい行政」の点で現状はどうか

のか。町民の声を取り入れる努力の中で地域担当の職員を配置してはどうかという意見も出されたが、実際にどこに聞く体制が現れ、また町民が協働で動いた実績はどのようなのかがあったのか？

向山町長 重要なテーマで行政全体で取り組みたい。それぞれの所管で対応できると考えている。町民全体が全てのまちづくりに関わって自分達の手で作ること町がサポートして行く。理念の意味が果たされるよう今後においても努力する。



金子 益三 議員

住宅リフォーム補助の

進捗状況は

現在6割程度である

金子議員 平成23年度から始まった住宅リフォー

ム補助は、他市町村から比べると利用が伸び悩んでいる。補助に関して利用の要件が複雑であり、助成率も低いとの意見が多いが、改定を行わないのか。

向山町長 町では、エネルギー対策と高齢化社会に即した快適な住まいづくり促進、町内住宅関連産業を中心とした地域経済の活性化のために、本年度から3カ年間の助成

を行うものとした。本町の助成率10%、下限工事費20万円、助成上限20万円は他市町村と比べて遜色なく、利用しやすいものとして制度変更は行わない。

金子議員 実際にかかる工事費用から、エコポイントを引いた分に助成を行ったり、リフォームに際して様々な制約が多いために利用者にとって使いにくく利用が伸びていない現状ではないか。

向山町長 エコポイント

の対象部分を町からの助成の中に重ねてしまうよりも、同率ならエコポイントを除いた部分に正味補助率を用いる方が利用者にとってメリットがでると考える。

更にご利用者にとって利便が向上するような部分に関して今後検討・研究の中で見出すことができるならば、改善の方向に向けて勉強をする。

利用の規定に関しては、施工業者と十分に相談をすることにより、利用者により、利用者にとつて最善の方策を図りたい。PR方法など町民に直接目に触れる形で理解していただけるような工夫について、研究をしていきたい。



リフォームされた住宅

単位老人会への助成を一本化して増額を行わないか
制度上難しく、増額はできない

金子議員 現在、25ある

住民会で15個の単位老人会が設置され、地域のボランティアや防災活動の

みならず、スポーツ・文化を通じて福祉推進など幅広い活動をされている。このような活動を円滑に

このような活動を円滑に

行うために、補助金の集約化と増額が必要と考える。また、これから発足するために未設置の住民会に促進指導が必要と考える。今後そのようなことは行わないか。

向山町長 上富良野町老人クラブ運営費交付金交付基準に基づき、それぞれの単位老人クラブと町老人クラブ連合会に交付している。また、老人クラブ連合会では加盟する単位老人クラブから会費を徴収して単位クラブの活動を助成するために補助を行っており、性質が違つことから一本化は困難であり、増額する考えは無い。また、本来老人

クラブは地域に居住する高齢者が自主的に組織し、自らの生きがいを求め活動することから、行政が主体的に誘導するのはなく地域の高齢者や住民会を含めて取り組むべきと考える。

金子議員 老人クラブ連合会に加盟できない単位老人クラブへの手当が必要と考える。

向山町長 住民会単位で小さな組織で高齢者が活動の中心となり地道な活動をしている単位クラブもある。住民会活動に対して町は総合的に応援する仕組みづくりを進めているのでその枠の中で工夫をしていく。

吹上温泉白銀荘の 洗い場の増設を

現在増設の考えはない

金子議員 白銀荘の女湯

の洗い場が少なく、苦情が増えているので改修し増設を行わないか。

向山町長 現在、浴室を

改修して、洗い場を増設する考えはない。指定管理者の振興公社と利用者に対してサービス向上の協議を図る。

北川教育長 文部科学省の公立学校など施設に関する整備計画が改正され、地方公共団体が作成する施設整備計画のために必要な事業として、



上富良野小学校

防災機能と新エネルギー環境に考慮した学校改築を
太陽光発電など環境に考慮した学校改築をしたい



米沢 義英 議員

米沢議員 上富良野小学 「防災機能の強化」「太陽光発電など環境を考慮し

機能と新エネルギー

などの導入が必要と

考えるが対応は。ま

た、放課後スクールの

場所の確保対策に

ついて伺いたい。

北川教育長

文部科

学省の公立学校など

施設に関する整備計

画が改正され、地方

公共団体が作成する

施設整備計画のため

に必要な事業として、

た学校施設の整備「校内LANの整備」老朽化した施設の再生「非構造部材の耐震化」が明記された。町としては文部科学省が示している施設整備基本方針に基づいて、上富良野小学校改築事業を

町の広報誌を点字・CD化対応を

テープ・CD化対応を

対応が可能か研究を行いたい

米沢議員 目の不自由な

方が安心して生活できる

環境を整えるために、町

の広報誌を点字・テープ・

CD化にするなどの対応

や安心して交差点を横断

できるように、音響付信

号機の設置が必要では。

向山町長 町の情報を全

ての町民に提供すること

は重要なことと考えてお

り、町の広報誌・防災無

線などを通じて情報の提

供を行っている。北海道

では、障がい者向けの広

報誌を外委委託により、

点字・テープ化しており、

これらも参考としながら、

実施したい。放課後スクールの場所の確保対策については、上富良野小学校改築検討委員会において現状の課題をクリアするために、教室の位置・面積に対してご意見を頂いている。



盲人用図書案内テープ

については、生活安全推進協議会と富良野警察署

安心して介護が受けられる

ような町の支援策を

サービス低下や負担増に

繋がるか動向を見たい

米沢議員 介護計画策定

について、高齢者などの

実態を把握することが求

められているが、現状と

課題は。また、要介護・

要支援利用者への負担割

合の引上げやケアプラン

作成利用料の自己負担化

の計画があるが、町独自の

軽減策などの対応は。

向山町長 町の高齢化率

は25.8%だが、今後、後期

高齢者が増加し、介護認

定を受ける方も増加する

ことが予想される。要介

護5に認定されている85

人を見ると、脳血管疾患

が6割であり、脳血管疾

患を繰り返して重症化し、

医療との連携が必要な方

が多く見られる。高齢者

の増加に伴い、伸び続け

る介護費用の負担給付の

へ要望したい。

バランスをとることで制

度を維持可能なものにする

ため、社会審議会介護

保険部会等において、さ

さまざまな検討を加え、サ

イス低下や負担増になる

方向付けは具体的に示し

ておらず、国の動向を注

視したい。

その他の質問

Q 休日の予約型乗り合いタクシートの運行について。

A 休日運行については現在予定していない。

Q 光ケーブルの設置について。

A 実施時期等については総合的に判断したい。

Q 見晴台公園の整備計画を白紙に。

A 一日も早く目的の完遂を図りたい。



中村 有秀 議員

白寿・米寿・喜寿の 敬老祝い金の継続を 高齢者が真に必要な 福祉サービスに見直す

中村議員 町の発展を支

えていただいた功労に感謝し、長寿を祝う立場で昭和42年から敬老年金を平成15年から白寿・米寿・喜寿の節目の敬老祝い金は継続すべきと考えていたが、平成23年度の町政執行方針で「敬老祝い金の見直しを図り、高齢者が真に必要な施策に反映するよう検討したい」とされているが見直しの理由と内容を明らかに。

向山町長 高齢化が進み

平均寿命も延びて町の65才以上の高齢者は3千人を超え、平成22年度は前期高齢者数と後期高齢者数が逆転する状況にある。高齢者は日々の日常生活を送るために多様な福祉サービスの提供や支援を必要としている方が大勢おられるので、福祉サービスの充実・拡充を図っていくことが今まさに望まれていることであり急務と考えている。平成24

年度以降の敬老祝い金は99歳の白寿は5万円を継続、88歳の米寿の3万円と77歳の喜寿の2万円は平成24年度に半額、平成25年度から廃止の見直しを予定している。

中村議員 後期高齢者の

皆様で、来年は節目の敬老祝い金が支給されると待ち望んでいる方もいるので、段階的な削減についても検討すべきではないか。また、真に必要な福祉サービスの充実の具体的な内容は何か。

向山町長 高齢者に対する

様々なサービスの提供が求められている実態と非常に厳しい財政状況の中で、高齢者全体をどう

組織機構の見直しは 24年度から実施するのか 具体的な課題整理に 時間を要する

中村議員 平成22年度及

び平成23年度の町政執行方針では、「行政機能が効率的・効果的に発揮され

支えていくかと総体的に考えての見直しなので、ご理解願いたい。個々の具体的な敬老祝い金の方法は、予約型乗り合いタクシーの全町試行運転、緊急通報システムの拡充と無償設置等が望ましいと考えている。



敬老祝い金の授与
(昨年9月、ラベンダーハイッツにて)

れて具体的に見えないが、その推進状況を伺う。

向山町長 昨年度より組

織機構の見直しの内部協議を行い、本年度は7名の課長職による検討プロジェクトを設置して、13回の会議を開催し、10月

一般質問等の その後の措置状況は

『上富良野中学校
グラウンド整備は』

中村議員 グラウンド

整備は優先度が高いので実施計画で取り進めるとの答弁だが、その推進は北川教育長 新規事業として平成24年度の予算要求を行った。
『道道291号吹上上富良野線の街路灯設置』

中村議員 必要性を認識

しており、道に早急に要望するとの答弁だったが、その後の状況は。

向山町長 歩道の整備も

含めて要望し、鉄道から和田昭彦氏地先周辺までの区間、平成24年度に調

20日に報告を受け、10月31日の課長会議で報告書を確認したが、更に組織として熟慮を重ね、実施に向けた具体的な課題整理には、一定程度の時間を要するのでご理解願いたい。

査費を予定。今後事業化に向けて要望継続する。

『中央ミニシティ広場と
町営駐車場のフェンス

補修と塗り替え』

中村議員 塗装の剥落と

除雪作業による変形があり、「四季彩のまち」に相応しい駅周辺の環境整備は計画的に進めるとの答弁だが、実施計画は。

向山町長 今後の維持を

考えると、塗装・改修・撤去等の早急の対策が必要と判断しているが、また、線路側は塗装の早々の計画化を考えている。方法については地元の方々にご意見を伺う。

質 疑 か ら



徳武 良弘 議員

災害時の備蓄食料の現況は

検討し整備を図りたい

徳武議員 我が町の防災

対策は十勝岳などを抱え

ていて、非常に重要な

位置付けにあると思う。

先の決算委員会の答弁

では備蓄食料250食との

ことだったが、現在は

どうなっているのか。

また、避難所における

必需品は何なのか伺い

たい。

向山町長

備蓄食料は

現在250食を保有してい

るが、これは毎年実施

している防災訓練時の

炊出し訓練用のもので



火山活動を続ける十勝岳

ていないことから、現在
見直し作業中の防災計画
の中で重点課題として位

置付け、町独自の備

蓄や国、北海道町村

会及び関係機関と締

結している防災協定

の受け入れ態勢等を

十分に検討し整備を

図りたい。また、避

難所における必需品

については、緊急避

難を想定すると、毛

布・光熱材料と考え

る。これらも見直し

作業で検討していきたい。



炊出し訓練用の備蓄食料

町の観光政策についての

ビジョンは

協議を重ねて進めていきたい

徳武議員 町の観光政策

について、日の出公園を

重点において進めるべき

だと考えるが、町長とし

てはどのようなビジョン

を持って臨むのか。例え

ば10年スパンぐらいの政

策を持って臨むべきだと

考えるが、具体的に長期

戦略を持ち合わせている

のかどうか伺う。

向山町長 第5期総合計

画に沿って取り進めてお

り、平成24年度に平成30

年までの観光振興計画の

策定に向けて、観光協会

などと事前協議を進めて

いる。日の出公園もその

重要性は変わらない。

徳武議員 観光協会など

と事前協議を進めている
ということだが、どう協
議を進めているのか。

向山町長 観光協会の

方々から意見交換を始め

たという段階で、最終的

な計画書策定については

専門の業者に委ね、そし

て、プロの目を取り込ん

で計画になるように想定

している。

徳武議員 日の出公園に

は具体的にどのような計

画を持っている

のか。

向山町長 日の

出公園は大きな

一つの核となる

場所だというふ

うに理解してい

る。そういう面

で、日の出公園

も大いに利活用

を図りたい。

徳武議員 町長

の政治家として

の思いを聞かせ

ていただきたい。

向山町長 観光

も含めてこの上



日の出公園とラベンダー畑

富良野町が115年を迎えて
いる中で、これをしっか
りと、更に基盤を強くし
て次の世代へ引き継いで
いる我々は責任を負わさ
れているというふうに考
えている。更に人材を含
め上富良野が目標として
いる「住んで良かった・
住み続けていたい町」を
具体化するための取り組
みをするのが責任だと
考えている。



一色 美秀 議員

子どもに対する 教育費予算の増額を

必要に応じて

予算措置を図っていく

一色議員 町の将来を背

負って立つ子ども達の教育に対する我が町の財政支援は誠に少ない。障がいや問題を抱える児童生徒の適切な支援を行うため、特別支援学級補助員を増員し、全ての学校に補助員を配置して、児童生徒の個々のニーズに柔軟に対応すべきと考えるがどうか。

北川教育長 特別支援学

級数は、上小6学級、西

円が計上されているが、14の特別支援学級に3名の非常勤嘱託職員の配置で十分対応ができています。学校から不足の要望は出ているのか。

北川教育長

教職員の配

置基準により、小学校は1学級に1名、3学級になれば4名、中学校は2学級であれば3名の教職員が配置されている。町の独自政策で必要に応じて3名を配置している。学校と協議をしながら配置し、学校運営をしているが、特に少ないという話が出てきていない状況である。

一色議員

一般会計62億

4千万円のうち、教育費は3億1千800万円と全体の5%しかない。これでは将来の我が町を支える子どもを育てることができないのか。金さえかければいいというものではないが、教育はよき指導者であり、人材が必要である。そのための人材に多くの

投資が必要である。現予算では町を担う子ども達の本当の将来は見えてこない。しっかりとした教育に対するビジョンがあるのか伺う。

北川教育長

教職員100名

弱の先生方が、今、一生懸命に取り組んで、礼儀正しくあいさつもでき、すくすく育っている状況を見て安堵している。学力的なものも状況的にはあるが、学校、家庭、地域との連携を含めながら子ども達を町全体で育てていくのが考え方で、現状で最大限の努力をしている状況であり、今後もしそういう形で進めていきたい。

一色議員

未就学時から

就学への円滑な引き継ぎが行われるよう、幼稚園・保育所（園）と小学校、中学校、高校が連携し、幼児と児童・生徒、保護者と保育士・教師の交流を通じて、相互理解を深め、豊かな心と生きる力を育むための十分な財源確保を図るべきと考えるがどうか。

北川教育長

様々な課題

を解決する連携事業として、小1が卒園した幼稚園・保育所に訪問する交流事業、幼稚園・保育所・小学校の先生が一堂に会する研修会、小中学校の先生が組織する中1ギャップ検討委員会、中・高教員による相互の授業参観と交流の合同研修会のほか、スクラム検討委員会、特別支援連絡協議会など、幼・保・小・中と、各行政機関が横断的に連携し、事業を推進する経費は必要に応じて予算措置を図っている。



西小学校

一色議員

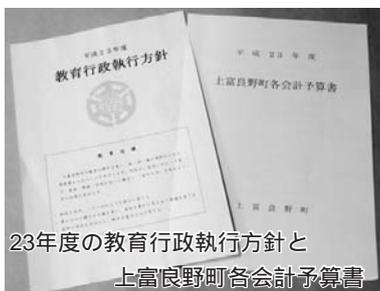
幼保・小学校

の取り組みと中1ギャップ検討委員会の取り組み、中高の取り組みを具体的に伺いたい。

北川教育長

幼稚園に訪

問したり、いろいろな活動内容を子ども達に直接見せるような状況で対応している。中1ギャップの関係は中学校の先生が小学校に訪問し、子ども達の様子を伺いながら、子ども達に応じた中学校への対応を図っていくというところで、検討委員会でも様々協議をしている。中高の授業参観は、上高をオープンにして中学生が授業内容、部活動などが先輩と交流を踏まえながら対応している。



23年度の教育行政執行方針と
上富良野町各会計予算書



今号から、町にあるサークルや団体を紹介し、紙面の上で町民の皆さんとの交流の輪が広がることを願い、『みんなのページ』を新企画として掲載することになりました。皆様のごところへ取材に伺うこともありますが、ご協力よろしくお願い致します。

今回のインタビューは・・・

米沢委員長です！

現在、町で活動している育児サークルは9サークルあります。

今回はその内の育児サークル（アイラブベビー）を紹介します。

代表の大竹美香さんに育児サークルの活動の内容についてお話を伺いました。この日も子ども達が元気に遊んでいました。



団体名称 I♡BABY
(アイラブベビー)
設 立 平成22年3月
構 成 15組35人
活動状況 毎週木曜日に社会教育総合センター2階和室で、10時から12時まで活動。

サークル活動

米沢委員長 育児サークルが結成された経過をお聞かせ下さい。

大竹代表 子育て支援センターで知り合った子育て中のお母さんが集まり、平成22年3月に育児サークルを結成しました。現在の会員は、15組35人で、毎週木曜日に社会教育総合センター2階和室で、10時から12時まで活動をしています。

米沢委員長 サークルの友達とはどんなお話をしていますか。

大竹代表 サークルの友達とは、流行している病気や予防接種のこと、子どもの健康状態など育児に関する悩みや相談、日常生活に必要な情報も交換しています。また、

サークルの友達も育児について同じ悩みを持つていることに気づかされることもあります。子育ては大変ですが、子どもたちの笑顔に元気をもらったりしています。サークルの友達と話しているときは、育児の疲れも忘れ、「ホッと」できる瞬間です。これからも、何でも話せるサークルであってほしいです。

議会にひびく

米沢委員長 町議会や町に要望がありますか。

大竹代表 議会広報は読んでいます。特に子育てについては誰が何を質問しているのか気になります。

サークルで得られない情報はインターネットを利用していきます。光ケーブルを設置して欲しいです。また、公共施設に木のおもちゃやジャブジャブ池があれば子ども達も喜ぶと思います。子育てには時間とお金が必要なのでヒブワクチンなどの無料化は助かります。また、転入祝としてゴミ袋の無料配布をお願いしたいです。これからも子育て支援の充実をお願いします。



議会の“窓”

上川管内町村議会議員研修会



11月9日に開催された上川町村議会議長会主催の研修会に9名の議員が参加し、北海学園大学法学部政治学科教授 神原勝氏より「議会が変われば自治体が変わる」の講演と、帝京大学教授、元自衛隊北部方面總監 志方俊之氏より「大丈夫か、日本の危機管理体制」の講演を聴講しました。

中富良野町議会との交流研修会



1月30日、上富良野町と中富良野町の両町議会議員会による交流研修会をかみんで開催し、研修しました。研修会は上富良野町出身の北海道大学大学院農学研究院長 松井博和氏を講師に招き、「これからの農と食の方向性を考える」の講演を聴講しました。

お詫びと訂正
72号(10月25日発行)7頁の新しい議会構成についての記事で誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

- | | | | |
|----------|--------|--------|----|
| 議会広報特別委員 | (誤) 岩 | (正) 岩崎 | 治男 |
| 議員会理事 | (誤) 谷 | (正) 金子 | 益三 |
| 議員会監事 | (誤) 金子 | (正) 谷 | 忠 |

議会の動き

- 10月26日 佐呂間町議会視察来町 議会運営委員会
- 11月7日 厚生文教常任委員会
- 9日 上川管内町村議会議員研修会
- 11日 全員協議会
- 総務産建常任委員会
- 13日、17日 厚生文教常任委員会
- 28日 第5回臨時会・議会運営委員会
- 29日 第2回議会報告会
- 12月5日 厚生文教常任委員会
- 6日 総務産建常任委員会
- 7日 議会運営委員会
- 8日 全員協議会
- 議会広報特別委員会
- 13日 第4回定例会(1日目)
- 14日 第4回定例会(2日目)
- 厚生文教常任委員会
- 20日 厚生文教常任委員会
- 21日 議会運営委員会
- 1月17日 美幌町議会視察来町
- 18日 議会広報特別委員会
- 26日 議会広報特別委員会
- 議会運営委員会
- 30日 第1回臨時会
- 厚生文教常任委員会
- 中富良野町議会
- 議員会との研修交流会
- 2月2日、4日 議会運営委員会

先進市町村行政調査

やまびこ

北の大文字とともに2012年を迎えました。
昨年は、東日本大震災や安全神話を覆した福島第一原発の事故、上富良野町では度重なる集中豪雨で河川や農業にも大きな被害をもたらしました。大変心の痛む年でありましたが、この様なことを通して身近な家族を思いやる心や、当たり前の生活がどれほど大切なものであるかなど、価値観を見直す機会を与えられました。一方、国では税と社会保障一体改革で復興増税や消費税等が検討されています。議会も新しいメンバーが加わり、11月に「身近で開かれた議会」を目指し、第2回議会報告会を開催しました。それらの中で頂いた貴重な意見をしっかりと受け止め、それぞれ議員としての役割を果たし、町民の付託に応えなければならぬと考えます。
広報委員も代わったのを機会に、住民も参加していただけるコーナーを設けました。ぜひご協力とご一読を。元気で頑張っている子ども達の笑顔を絶やさないまちづくりに進んでいきます。(村上記)



- | | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 米沢 | 義英 |
| 副委員長 | 村上 | 和子 |
| 委員 | 徳武 | 良弘 |
| " | 岩崎 | 治男 |
| " | 一色 | 美秀 |
| " | 岡本 | 康裕 |

議会の様子を見にきてください！ 次回の定例会は3月上旬の予定です。